

博物館名	岩手県立博物館	福島県立博物館
設置主体	岩手県	福島県
開館年月日	S55.10.5	S61.4.1
面積 延床面積(㎡)	1205,156	11,071.44
展示面積(㎡)	3,405.56	2,815.10
収蔵庫面積(㎡)	1,665.98	2,294.80
指定管理者制度導入の有無	有(管理部門のみ) (H18から(財)岩手県文化振興事業団)	無
職員 事務系(人)	4	6
学芸系(人)	17	20
所蔵資料点数	166,266	100,031
入館者数(H18年度)	38,240	約80,000
支出(平成18年度)(千円) (常勤職員の人件費含まず)	224,357	256,481
支出のうちの事業費(千円)	62,073	250,880
収入(H18年度)(千円)	7,966	10,704
博物館建設事業費(千円)	6,035,273	6,451,641
分野	総合博物館(自然史系・歴史系)	総合博物館(歴史系中心)
テーマ	—	—
特色	専任職員を置き、県内外から資料の科学分析・保存処理の業務を受託している。	総合とはいっても、自然系は、化石・鉱物などの地質学分野にシフトされている。
コンセプト	・地質時代から現代にいたる地質・考古・歴史・民俗・生物などの資料が展示され、岩手県の自然と文化が理解できる博物館。	・敷地が会津若松市の鶴ヶ城址公園内に位置するため、歴史的景観に配慮して「屋根のある博物館」のコンセプトでつくられた「現代の蔵」。
展示内容	・総合展示室で歴史系、自然史系を合わせた通史展示を行い、ほかに比較的頻繁に展示変えを行う文化史展示室、自然史展示室がある。 ・ほかに屋外展示、体験学習室がある。	・総合展示と部門展示からなる。総合展示は、福島県の通史を展示し、部門展示で、テーマ性の高い専門的な展示を実施している。
参考となる博物館活動の特色	・文化財科学部門に力を入れており、職員を2人配置して、資料の保存・管理、科学分析・保存処理に取り組んでいる。 県内外から資料の分析等の依頼を受け、2千万円程度の収入があり、研究交流にもつながっている。	・オーソドックスな県立博物館。 ・特に目立った特徴的な活動は行われていないが、県立博物館として、展示、研究・保存科学、教育普及など漏れのない標準的な活動を展開している。
留意されるべき課題	・開館時に文化ゾーンとして開発する予定だったが、交通の便が悪く、併設されていた美術館が移転したのちは、博物館だけが取り残された感じになってしまい、入館者数も漸減している。 ・総合展示は固定的で展示替えが難しく開館当初からほとんど変わっていない。	・開館して20年たったが、リニューアルをしていない。予算削減によって、資料購入費や企画展の回数が減っている。 ・市町の博物館との連携という点では、年1回人材育成のために研修会を開いているということであったが、実際には、十分なものとはなっていないという印象であった。

県外博物館の取組等事例

博物館名	福島県歴史資料館	霊山こどもの村
設置主体	福島県	伊達市(合併前 霊山町)
開館年月日	S45.9.1	S47.7.27
面積 延床面積(㎡)	1,671.00	1,160.57
展示面積(㎡)	180.00	945.58
収蔵庫面積(㎡)	455.00	43.19
指定管理者制度導入の有無	有 〈H18から(財)福島県文化振興事業団〉	有 〈H18から(社)霊山こどもの村管理会〉
職員 事務系(人)	2	10
学芸系(人)	3	0
所蔵資料点数	199,516	約300
入館者数(H18年度)	約9,000	39,216
支出(平成18年度)(千円) (常勤職員の人件費含まず)	—	56,793
支出のうちの事業費(千円)	—	27,675
収入(H18年度)(千円)	—	56,793
博物館建設事業費(千円)	—	785,187
分野	公文書館	チルドレンズミュージアム
テーマ	—	アース(地球)とアート(芸術・文化)とサイエンス(科学)
特色	古文書・公文書などの歴史資料により福島県の歴史を知ることができる。	日本で初めての本格的な参加体験型のチルドレンズミュージアム。
コンセプト	・地積図、土地台帳、役場文書などの明治期以降の公文書類、近世・近代の古文書など、福島の歴史をあらわす歴史資料の調査研究・収集・整理・保存を行い、閲覧公開を行う。	・子どもたちが自然に親しみながら、健康で情操豊かな児童に育つことを願って設立された児童施設。
展示内容	・閲覧公開機能に付随する機能として、180㎡の展示室を持ち、館蔵の歴史資料を用いて、さまざまな角度から福島県の歴史や文化を紹介する企画展示を定期的実施している。	・メイン施設となる本館(H6オープン)で、ハンズオンという実際に手に触れて体験する常設展示や企画展を実施している。展示物は、地球や科学をテーマに作家が創作したもので、子どもが操作しながら、自然現象について学べる仕掛けになっている。
参考となる博物館活動の特色	・H18に、「ふくしま文化遺産保存ネットワーク」をつくる。文化遺産(古文書、公文書、美術品など)の保存・継承を目的とする住民参加型ネットワーク。平時には情報共有、災害時等には、文化遺産の救出、保存活動を行うもの。実際には、これから充実させていこうとしている段階。	・ハンズオンという要素により、子どもたちが楽しみながら展示物に触れ、驚きや発見をしながら学べる施設となっている。 ・多彩なワークショップが用意され、体験しながら子どもも大人も楽しむことができる
留意されるべき課題	・H18より指定管理者制度を導入(隣の県文化センターと一体管理)。入館者数の増加を求められ展示や講座に力を入れているが、人員の不足もあって、収蔵庫内の資料の整理ができなくなっている。 ・資料のデータベース化やマイクロフィルム化も予算不足で、実現できない。	・豊かな自然の中で楽しめる施設ではあるが、福島駅から車で40分ほどかかり、路線バスも廃止になって、交通の便が非常に悪い。近年、福島駅前に大型児童館ができ、県内にも自然体験施設があるなど、利用者数が伸び悩んでいる。

県外博物館の取組等事例

博物館名	日本科学未来館	山梨県立博物館
設置主体	(独)科学技術振興機構	山梨県
開館年月日	H13.7.10	H17.10.15
面積 延床面積(㎡)	40,589(駐車場を含む)	8,760.89
展示面積(㎡)	9,470	2,764.83
収蔵庫面積(㎡)	—	1,458.28
指定管理者制度導入の有無	無	無
職員 事務系(人)	約140(嘱託の展示解説員等も含む)	8
学芸系(人)	—	11
所蔵資料点数	—	206,894
入館者数(H18年度)	778,629	124,697
支出(平成18年度)(千円) (常勤職員の人件費含まず)	※年間運営費は30億円を超える。	282,216
支出のうちの事業費(千円)		76,170
収入(H18年度)(千円)		34,496
博物館建設事業費(千円)	約300億円	12,098,101
分野	最先端科学技術を体験できる科学博物館	歴史に重点を置いた県立博物館
テーマ	科学がわかる世界がかわる	山梨の自然と人(歴史に重点)
特色	収蔵庫を持たず、展示替え後は巡回展や全国の科学館に貸し出している。	近年建設の県立博物館の好例
コンセプト	・科学技術を文化として捉え、私たちの社会に対する役割と未来の可能性について考え、語り合うための、全ての人々に開かれた場とする。	・参加体験・交流型博物館 ・ハブ博物館(県内の自然・文化遺産や、文化施設を結ぶネットワーク博物館) ・成長する博物館
展示内容	・常設展示では、現在進行形の科学技術を第一線で活躍する科学者・技術者の監修の上で製作している。 ・企画展では、科学技術が私たちにもたらす変化や新しい世界像に焦点をあてて展示を企画している。	・常設展示は、「山梨の自然と人」を紹介する鑑賞・学習型展示と体験型展示「歴史の体験工房」からなる。 ・6分割できる企画展示室(757㎡)は、全国巡回の展示企画にも対応可能な規模であり、規模の増減も容易なため多様な展示企画に対応可能。
参考となる博物館活動の特色	・対話と実験を通じて先端の科学技術を誰もが体験できる場として、実験工房を設置している。 ・研究機関や学校、企業、メディアなどと強い連携のうえで開催するイベントや展示も多数行っている。	・ハブ博物館の一環としての地域インデックスコーナーや資料閲覧室(司書を配置)は、ネットワーク型博物館の参考になる。 ・第三者機関「みんなでつくる博物館協議会」の設置や、通信簿ツアー、NPOとの連携などの活動は、県民参画型博物館の参考事例である。
留意されるべき課題	・一箇所の展示替えだけで数億の経費を要し、頻繁な展示替えは困難となっている。年間の運営費は30億を超えている。 ・展示には、ボランティアのほか、展示解説員が多数配置され、来館者とのコミュニケーションを重要な展示手段の一つをしているが、そのため、1日300人程が対応の限界となっている。	・常設展示は、よく内容が練られたものであるが、模型と映像機器が中心となっており固定的な展示となっている。 ・ハブ博物館機能は、まだこれからという感じであり、県内の文化財や博物館を検索できるインデックスコーナーも限定的であり、ネットワークの具現化が容易でないことがわかる。

県外博物館の取組等事例

博物館名	長野県立歴史館	滋賀県立琵琶湖博物館
設置主体	長野県	滋賀県
開館年月日	H6.11.3	H8.10.20
面積 延床面積(㎡)	10,457.00	23,987.00
展示面積(㎡)	1,570.00	6,106.00
収蔵庫面積(㎡)	1,860.00	5,000.00
指定管理者制度導入の有無	無	無
職員 事務系(人)	3	11
学芸系(人)	19	26
所蔵資料点数	273,647	380,000
入館者数(H18年度)	112,230	476,563
支出(平成18年度)(千円) (常勤職員の人件費含まず)	172,706	719,935
支出のうちの事業費(千円)	41,954	409,434
収入(H18年度)(千円)	6,981	179,699
博物館建設事業費(千円)	7,918,970	21,979,389
分野	歴史系博物館	自然系の総合的博物館
テーマ	信濃の風土と人びとの暮らし	琵琶湖の自然と歴史(湖と人間)
特色	公文書館機能と埋蔵文化財機能が併設された博物館	高度な研究機能をもつとともに、先進的な利用者参画型の取組を行う博物館
コンセプト	・考古資料・行政文書・古文書などの歴史資料の収集、保存、調査研究、情報提供及び展示等を行い、県民が文化財への親しみと理解を深めるための歴史学習活動を支援する。	・利用者との間で知識や情報を交換し、語り合う場を用意し、たえず成長・発展する博物館を目指す。 ・フィールドへの誘いとなる博物館 ・交流の場としての博物館
展示内容	・東日本と西日本、太平洋側と日本海側の人と物の交流する結節点として、独自の風土と文化をはぐくんできた長野の歴史を紹介するオーソドックスな通史展示。	・琵琶湖とその周辺の生活や生態系からみた人と自然の関係や環境がテーマ。 ・琵琶湖やその周辺と世界の湖に住む魚を中心とした水族展示。
参考となる博物館活動の特色	・総合情報課・考古資料課・文献史料課の3課により博物館・公文書館・埋蔵文化財センター機能(今は収蔵と保存処理のみ)を併せもった館は、他に例のない試みである。	・県民参画型(利用者主体の博物館運営)の先進的な取り組みを行っている。 ・はしかけ制度やフィールドレポーター(県民が主体となり、博物館活動に参画するシステム)を実践している。 ・高度な研究機能を博物館活動に活かすために学芸員の所在場所として、研究室の他に事務学芸室がある。
留意されるべき課題	・開館以後、人員削減等起因する公文書機能と埋文機能の低下傾向に対して、博物館機能が相対的に重視される結果を招き、閲覧手続きにおける歴史史料課との齟齬などの問題も抱えている。 ・常設展示には実物大の模型が多く固定的で展示替えが難しい。	・展示面積・収蔵庫面積など、県立級の博物館としては、最大級の規模をもった博物館であり、そのまま参考になるものではないが、理念や具体的な取り組みには参考とすべき点が多い。

県外博物館の取組等事例

博物館名	兵庫県立人と自然の博物館	和歌山県立博物館
設置主体	兵庫県	和歌山県
開館年月日	H4.10.9	S46.4(H6.7.8.移転)
面積 延床面積(m ²)	18,691.00	6,867.00
展示面積(m ²)	4,049.00	1,330.00
収蔵庫面積(m ²)	2,951.00	1,834.00
指定管理者制度導入の有無	無	無
職員 事務系(人)	14	11
学芸系(人)	36	7
所蔵資料点数	74,321	6,497
入館者数(H18年度)	206,605	23,990
支出(平成18年度)(千円) (常勤職員の人件費含まず)	445,819	55,415
支出のうちの事業費(千円)	122,852	20,583
収入(H18年度)(千円)	5,656	7,095
博物館建設事業費(千円)	8,070,020	19,200,000
分野	自然系博物館	歴史系博物館
テーマ	人と自然の共生博物館	-
特色	琵琶湖博物館と同じく高水準の研究機能を備えた県民参画型の生涯学習院	地域の文化財の保存と公開の拠点施設としての使命を果たす。
コンセプト	・貴重な資料標本と優れた研究者などが核となって、生涯学習に機能的に対応できる「人と自然の共生博物館」を目指している。	・和歌山県内に残された豊富な文化財を後世に伝えるため、県ゆかりの文化財及び博物館資料を、収集・保管・調査・展示し、その成果を一般に公開する。
展示内容	・常設展示は、「兵庫の自然誌」をはじめとして、「人と自然」「新しい文化」「生物の世界」「地球、生命と大地」と題する五つの主題のもとに、人と自然のかかわり、変動する地球の姿とそこで展開される生命の営みを紹介。	・原始・古代から近現代までの通史を紹介する「常設展」をはじめ、熊野古道や高野山町石といった「屋外展示」、「ギャラリー展示」がある。
参考となる博物館活動の特色	・職員の約半数が県立大学の教員の兼職となっており、研究機能が高い。 ・学芸員すべてが研究業務と博物館事業分野を兼務する体制を敷いている。 ・キャラバン事業、シンクタンク機能、先進的な資料の収蔵機能など見習うべき点が多い。	・資料の収集保存に力点を置き、収蔵庫、展示ケースについては保存科学の成果を取り入れ最新のものとしている。 ・特に収蔵庫については、温湿度設定の異なる区画を設け、調湿能力の高い壁面材を採用している。 ・館蔵品、県内の文化財のデータベース検索ができる「文化財情報コーナー」を設けている。
留意されるべき課題	・展示棟は、博覧会施設の流用のため、必ずしも展示構成・動線が機能的でない面もあるが、一家族が生活に使う水をペットボトルで積み上げてあらわすなど、展示方法が分かりやすく工夫されている。 ・企画展示室が狭い。 ・収蔵施設及び研究設備は先進的なものであり、見習うべき点が多い。	・和歌山城二の丸内跡にあった旧博物館から移転する際に、開設を急いだため建物のコンクリートから発生するアルカリ残留を除く期間(2夏を越える必要)を十分とれず、結局開館が半年延びた。 ・学芸員5人で、館内業務に手一杯状況。 ・美術館と一緒に作られることになり、建築面積との関係で、展示面積を十分とれなかった。

県外博物館の取組等事例

博物館名	呉市海事歴史科学館 (大和ミュージアム)	島根県立古代出雲歴史博物館
設置主体	広島県呉市	島根県
開館年月日	H17.4.20	H19.3.10
面積 延床面積(㎡)	9,628.00	11,854.80
展示面積(㎡)	3,551.38	3,317.00
収蔵庫面積(㎡)	361.95	2,131.36
指定管理者制度導入の有無	有(管理部門のみ) 〈H20より導入予定〉	有(管理部門のみ) 〈ミュージアムいちばた〉
職員 事務系(人)	10	36
学芸系(人)	4(その他、図書・科学担当6名)	11
所蔵資料点数	214,534	前身施設からの移管中のため不明
入館者数(H18年度)	1,179,324	227,442(H19.3.10～H19.7.31)
支出(平成18年度)(千円) (常勤職員の人件費含まず)	292,000 (461,000(人件費込))	269,000 (461,000(人件費込み))
支出のうちの事業費(千円)	124,000	93,000
収入(H18年度)(千円)	409,000	38,325
博物館建設事業費(千円)	6,500,000	12,000,000
分野	専門博物館	歴史系博物館
テーマ	歴史と平和の大切さを伝える博物館	古代出雲文化の再発見
特色	忠実に再現された1/10サイズの戦艦大和模型が目玉資料となっている。	地元企業を代表としたJVが、管理部門指定管理者となっている。
コンセプト	・造船技術等を通し、呉の歴史を後世に伝え、新しい時代に生かす。 ・市民の生涯学習実践のための環境を整備し、周辺施設と調和を図り、人々が集う施設とする。	・古代文化を中心とした島根県の歴史と文化を発信・活用していくための拠点となる施設
展示内容	・戦艦大和の1/10模型がシンボリックな展示となっている。 ・呉のまちを支えた造船をはじめとする技術を通して、我が国の歴史を紹介するとともに、戦争にかかわる展示品を通して、平和の大切さを伝える。	・総合展示(島根の人々の生活と交流)、テーマ別展示(出雲大社と神々の国のまつり、出雲国風土記の世界、青銅器と金色の太刀)、神話展示(神話回廊)からなる常設展示と企画展示を実施している。
参考となる博物館活動の特色	・まちづくりと一体となった博物館運営および海上自衛隊のてつものくじら館と連携した博物館活動による相乗効果があがっている。 ・開館以来、300万人以上という驚異的な入館者数を得ている。	・施設管理、広報、総合案内などの業務において指定管理者制度を導入している。 ・出雲大社の隣接地であり、地元観光資源を活用した集客活動を実施。 ・別棟の体験工房で勾玉作り、藍染など本格的な体験学習が可能。 ・学校教育との連携事業として、学校の教員と協働して、積極的に取り組んでいる。
留意されるべき課題	・目玉となっている1/10の戦艦大和模型の展示効果で、たくさん入館者を得ているが、徐々に入館者も減って区くる傾向にある。 ・今後は、目玉のみに頼らず、原爆が投下された広島とセットになり、平和の大切さを伝える展示活動を強化するなど、館のコンセプトに沿った活動を進めていく必要がある。	・基本構想で博物館と同時整備される予定の古代文化研究センター(博物館が展示・発信を受け持ち、センターが調査・研究を受け持つ)が財源不足により凍結。 ・建設事業費が途中で削られ、収蔵スペースや会議室が充分といえず、不便を生じている。 ・指定管理の自由裁量が少なく、課題があるようである。

県外博物館の取組等事例

博物館名	北九州市立自然史・歴史博物館 (いのちのたび博物館)	九州国立博物館
設置主体	福岡県北九州市	独立行政法人国立博物館
開館年月日	H14.11.3	H17.10
面積 延床面積(㎡)	16,948.00	30,085.42
展示面積(㎡)	6,139.00	5,444.00
収蔵庫面積(㎡)	2,506.00	4,518.00
指定管理者制度導入の有無	無	無
職員 事務系(人)	10	10
学芸系(人)	17	19
所蔵資料点数	164,050	237(収蔵品)、404(寄宅品)
入館者数(H18年度)	362,291	895,098(17年度)
支出(平成18年度)(千円) (常勤職員の人件費含まず)	544,128	2,249,830
支出のうちの事業費(千円)	114,600	—
収入(H18年度)(千円)	143,636	282,187
博物館建設事業費(千円)	16,658,607	—
分野	自然史・考古・歴史の総合博物館	歴史系博物館
テーマ	自然と人間の関わりを考える共生博物館	海の道、アジアの路
特色	自然史・歴史・考古の分野を融合させた西日本最大級の総合博物館	全国で4番目の国立博物館。 地元県・市・企業等が誘致、寄付活動
コンセプト	・知的アクセス権を保障する博物館、セカンドスクールとしての博物館、研究の成果を教育・普及に生かす博物館	・日本文化の形成をアジア史的な視点から捉える(文化交流展示のテーマ)。
展示内容	・自然史ゾーン(太古の北九州を復元し、また北九州の現在の特徴ある自然を解説)、歴史ゾーン(北九州地域の歴史やそこで営まれた人々の暮らしの変遷の様子を「路」をテーマに展示・紹介)からなる。	文化交流展示(常設展) 1縄文人、海へ、2稲づくりから国づくり、3遣唐遣の時代、4あじあの海は日々これ公益 5丸くなった地球近づく西洋の5テーマで構成。ほかに企画展示あり。
参考となる博物館活動の特色	・隣にスペースワールド(遊園地)があり、修学旅行の誘致に利用している。 ・自然史系の学芸員は全員学位を取っている者、歴史系も修士を採用し、研究に力を入れている。	・あじっば(アジアの原っぱの略)ー親子連れ用常設展示のコンセプトでアジアのマーケットをイメージ、さわり、遊び、体験できるスペースを設置。 ・ミュージアムサイエンス(バックヤードツアー)ー博物館の舞台裏の収蔵庫、分析装置、修復作業場などを行う人材と設備を整備し、バックヤードツアーとして見学できるように開設モニターや見学用窓を設置している。
留意されるべき課題	・自然史・考古・歴史の3分野をやるうえで「共生」という共通テーマを持つことにし、展示には各分野の統合を取り入れようと努力しているが、まだ意識に差がある。 ・既存の資料をたくさん持っていたため、それを生かして見せられる施設とするよう、建築設計より先に展示設計を行っており、既存資料のある当県においても参考となるやり方ではないか。	・免震構造をとっており、その説明をバックヤードツアーとして見学、説明している。 ・館の中は、独立行政法人、県、共用部分に分かれており、県側スペースに福岡県の学芸員等も駐在しているとのことで、誘致にあたって設立された(財)九州国立博物館設置促進財団も九州国立博物館振興財団に名称変更して、事務所を構え誘客等支援活動をしているとのことだった。

県外博物館の取組等事例

博物館名	長崎歴史文化博物館	三重県立博物館
設置主体	長崎県・長崎市	三重県
開館年月日	H17.113	S28.6.28
面積 延床面積(㎡)	12,239.00	3,176.00
展示面積(㎡)	3,216.00	333.00
収蔵庫面積(㎡)	1,050.00	1,718.00
指定管理者制度導入の有無	有(資料管理を除(館運営全般) 〈乃村工芸社〉)	無
職員 事務系(人)	10	1
学芸系(人)	13	7
所蔵資料点数	48,000	280,000
入館者数(H18年度)	609,424	16,977
支出(平成18年度)(千円) (常勤職員の人件費含まず)	341,992	53,560
支出のうちの事業費(千円)	135,575	32,123 (うち18年度新規事業 移動展示 の事業費27,773千円)
収入(H18年度)(千円)	267,716	227
博物館建設事業費(千円)	8,000,000	—
分野	歴史系を中心とした博物館	総合博物館(自然系・歴史系)
テーマ	近世長崎の海外交流史(展示テーマ)	三重の自然と歴史文化
特色	(株)乃村工芸社を指定管理者として、館 の運営全般を委託している。	みんなの博物館を目指して、サポート スタッフ活動を展開中
コンセプト	・長崎奉行所という歴史的建物の復 元と同時に、博物館としての機能も備 えた施設。	・三重の自然や歴史文化を知るきっ かけづくりの博物館。
展示内容	・常設展示では、「近世長崎の海外交 流史」をテーマとし、鎖国時代に唯一 の海外交流拠点として栄えた長崎の 歴史や文化を紹介している。 ・長崎奉行所を復元した建物を併設。	・トバリウとミエゾウの化石を中心とし た常設的展示と企画展示を実施してい る。 ・資料に触れることができる体験型展 示を設置している。
参考となる博物館活動の特色	・長崎県・長崎市の共管で開設した。 ・地域政策ととらえ、知事部局で所管。 ・博物館運営全般を指定管理者に委 託しているが、県からも学芸員を駐在 として併設の長崎歴史文化研究所に6 人派遣している。 ・指定管理者と県及び長崎市は、週1 回ミーティングを行い、情報共有、意思 疎通を図っている。 ・長崎歴史文化研究所では、外部と共 同研究を行い、「長崎学」研究を行って いる。	新しい時代の博物館を目指した試みと して、平成18年度より以下の試みを実 践している。 ・移動展示(県内5ヶ所) ・サポートスタッフ活動
留意されるべき課題	・乃村工芸社はJTBと契約し職員を2 人採用し、団体客誘致活動を行うと共 に、地元企業に普段から企画展の協 賛等の営業活動を行っている。協賛金 は、多くは期待できないが、博物館へ の理解と金銭以外の支援などが得ら れ大変メリットがある。 ・入場者が増えるほど経費がかかり指 定管理者の入館者増へのインセンテ ィブを阻害している。	先進的な他館の取り組みを参考に、新 たな博物館活動を展開するためには、 ハード・ソフト両面の改善が必要であ る。